

ごあいさつ

東京学芸大学は、明治6年に設立された東京府小学教則講習所、大正9年に設立された東京府立農業教員養成所などを前身とする4校の師範学校を統合して、昭和24年5月に創立されました。附属図書館では、これら前身機関の蔵書を引き継ぐとともにコレクションの充実を図っているところです。とりわけ特徴的なものは、江戸時代に寺子屋で使われていた庶民教育の教科書ともいべき往来物をはじめとして、明治初年から現在に至るまでの教科書のコレクション、そして近世庶民教育資料としての「双六コレクション」などです。

今年は、この双六をできるだけ多くの方々に直接ご覧いただけるよう、「双六シリーズ」の第3回目として「道中双六」をとりあげ、典型的な東海道五十三ごじゅうさんつぎ駅ものを中心に、時代とともに変容する“旅”の数々を紹介します。江戸期に始まる「道中双六」を自由自在に展開してきた遊び心と、それを育ててきた庶民文化の層の厚みと広がりを経験していただければと思います。また、双六と併せて関連資料を展示するほか、画像による紹介や楽しい体験コーナーも用意しました。

当時の様子を今に伝える双六を通じて、その時代に想いを馳せながら、こうした遊びが世に送り出された背景、そして遊びを通じて人々が何を思い、何を学んでいったのかをご一緒に考えていただければ幸いです。

また、東京学芸大学附属図書館では貴重な資料を多くの皆様に手軽にご覧いただけるように、資料のデジタル化にも取り組んでおり、望月文庫及び双六コレクションの画像データベースをインターネットで公開しています。附属図書館のホームページ (<http://library.u-gakugei.ac.jp/>) からご覧ください。

東京学芸大学附属図書館長

細江文利